

「て・で」の識別 確認テスト（古典文法） 解答・解説

■ 解答・解説

問1 (ア) 接続助詞「て」。「見」は上一段動詞「見る」の連用形で、そこに付いて動作を単純につないでいる。「花を見て、立ちどまった」。

問2 (イ) 接続助詞「で」。直前の「言は」は四段動詞「言ふ」の未然形。打消接続で「～ないで」と訳す。

現代語訳…「物も言わないで（言わずに）」。

問3 (ア) 接続助詞「て」。「待ち」は四段動詞「待つ」の連用形。「(月を) 待って」と単純につなぐ。

問4 (ア) 接続助詞「て」。「消し」は四段動詞「消す」の連用形。「灯を消して」と動作を順につなぐ。

問5 (ア) 接続助詞「て」。「吹き」は四段動詞「吹く」の連用形。「風がひどく吹いて」。

問6 (イ) 接続助詞「で」。直前の「遂げ」は下二段動詞「遂ぐ」の未然形。「(思うことも) 成し遂げないで」。

意味（接続）…打消接続。

問7 「思っていたことも成し遂げないで、むなしく帰った。」

問8 (ア) 接続助詞「て」。⑦「笛をにて遊ぶ」では「にて」が「～で（手段）」を表す格助詞的用法に見えるが、傍線部としては「にて」（断定「なり」連用形「に」＋接続助詞「て」）にあたる。よって正しくは（エ）「にて」。※判別の核心は「に＋て」と分解できるか。

問9 場所。「都にて聞きしこと」＝「都で聞いたこと」。場所を表す。

問10 (ア) 接続助詞「て」。「濡れ」は下二段動詞「濡る」の連用形。「雨に濡れて」。

問11 (イ) 接続助詞「で」。「せ」はサ変「す」の未然形。打消接続。

現代語訳…「答えもしないで」。

問12 (ア) 接続助詞「て」。「頼み」は四段動詞「頼む」の連用形。「あの人を頼りにして」。

問13 (イ) 接続助詞「で」。

根拠…直前の「知ら」は四段動詞「知る」の未然形。未然形＋「で」は打消接続「～ないで」であり、「道を知らないで（道もわからずに）」と訳せる。連用形＋「て」の単純接続とは活用形で区別する。

問14 (ウ) 完了の助動詞「つ」の連用形「て」。

根拠…「て」の直後に推量・意志の助動詞「む」が続いている（「てむ」＝強意「つ」＋「む」）。下に助動詞があるので、接続助詞ではなく完了「つ」の連用形と判断する。「書いてしまおう」。

問15 原因。「病ひにて世を去りにけり」＝「病気が原因で（病気で）亡くなった」。原因を表す。

問16 (ア) 接続助詞「て」。「なり」は四段動詞「なる」の連用形。「暮れ方になって」。

問17 (イ) 接続助詞「で」。「知られ」は受身の助動詞「る」の未然形「れ」。未然形+「で」で打消接続。

現代語訳…「人にも知られないで (気づかれずに)」。

問18 「人にも気づかれないで (知られないように)、ひそかに泣いた。」

問19 接続助詞「て」は直前が連用形、接続助詞「で」は直前が未然形になる。この活用形の違いが両者を見分ける最大の手がかり。

問20 「で」は打消の「ず」に「て」が付いた「ずて」が変化したもので、打消の意味を含む (~ないで)。単に動作をつなぐ現代語の「て」とは意味が逆になる。

問21 「て」の下にさらに助動詞が続いている(「てむ」「てき」「てけり」など)場合は、完了「つ」の連用形「て」である。接続助詞「て」は下に助動詞を伴わない点で区別できる。

問22 ⑨「濡れ」の終止形…濡る(下二段)。⑥「遂げ」の終止形…遂ぐ(下二段)。
